

平成 2 8 年度連合農学研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準 4 学生の受入 4－1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4－2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	外国人留学生のニーズとして、9月に修士課程を修了した場合に10月から入学できる博士課程を望む声に應えるため、平成29年度入学者選抜から英語特別プログラム入試を設けた。 平成28年度入学者は28名（4月入学21名、10月入学7名）であった。	「平成28年度岐阜大学大学院連合農学研究科学生募集要項」 資料1	「研究科概要」 資料2
基準 5 教育内容及び方法 5－2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程） 5－5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）	連合農学研究科の教育内容の「質」を保ったまま、国際競争力を養成するために現行の全科目を英語で行う英語特別プログラムのカリキュラムを新設した。	「平成28年度岐阜大学大学院連合農学研究科学生募集要項」 資料1	
基準 6 学習成果 6－1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6－2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	中間発表を半年毎に実施することにより研究の進捗状況を確認するとともに、修了時には公開論文発表会を行い、学習（研究）成果の評価を行った。また、学生間の学習成果の交流となり、学生自身が能力を自己点検し、学習成果を確認できた。また、平成28年度修了生16名に対し、修了生アンケートを実施し、その結果を平成29年5月の代議員会にて、分析・評価した結果、本研究科の教育方法・指導体制等現状に満足していることが確認できた。	「平成28年度修了生アンケート集計表」 資料3	
基準 8 教育の内部質保証システム 8－1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備さ、機能していること。 8－2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	修了生が、南部アジア地域の協定大学に教員として戻り、さらに研究した内容を、本研究科が主催する国際シンポジウム（実施日：平成28年8月29日（月））の全体会で研究成果を発表するとともに、さらに3つの分科会に分かれてより深い研究討論を行い、今後の研究の方向性を確認することができた。また平成28年度には6名の学生が研究成果を Reviews in Agricultural Science に投稿することができ、学習成果の把握ができた。	「Reviews in Agricultural Science」 資料4	

平成28年度 連合農学研究科の教育改善

連合農学研究科委員会

入学試験委員会

- 【基準4 学生の受け入れ】
- 英語特別プログラム入試の新設
- 留学生の10月入学希望への対応

代議員会

(岐阜・静岡大学 計9名で構成)

- 【基準5 教育内容及び方法】
- 英語特別プログラムのカリキュラム新設
- 現行の全科目を英語で実施
- 【基準6 学習成果】
- 継続的な学習成果の評価
- 中間発表を半年毎に実施
- 大学院の教育研究成果
- 修了生アンケートを実施
- 【基準8 教育の内部質保障システム】
- 学会誌への投稿
- 研究成果をReviews in Agricultural Scienceに投稿
- 修了生へのフォローアップ
- 国際シンポジウムで研究成果を発表